

研 究 分 野	増養殖技術	部 名	ほたて貝部
研 究 課 題 名	新耳吊り養殖技術開発試験		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H. 1 5 ～ H. 1 7		
担 当	小坂 善信		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

これまでの養殖方法を見直し、生産効率が高く、経費の削減を図るための新しい耳吊り養殖方法を開発する。

〈試験研究方法〉

陸奥湾内 5 地点（東湾 1 地点、西湾 4 地点）で従来の養殖方法（丸籠、パールネット、アゲピン耳吊り）で行ったホタテガイと、ループ式のものとして試作したロープ（撚りが少なく、留金の脱却が簡単なもの）に新耳吊り留金を直接はめ込む方法で養殖したホタテガイの成長（殻長、全重量、軟体部重量）等を比較した。試験は平成 16 年 3～4 月に開始し、平成 17 年 3 月に終了した。

〈結果の概要・要約〉

従来のホタテガイ養殖方法と新しい留金の爪の長さを 3.5mm、4.0mm、4.5mm にそれぞれ変えて成長比較を行ったところ、爪が長い方が成長がよいことが判った（図 1）。さらに、試作したロープに留金の間隔を 10cm と 12cm に変えて吊るしたところ、間隔の差異による成長差は見られなかった（図 2）。昨年度に見られた異常貝については見られなくなり、留金の改良はうまくいったものと考えられた。

〈主要成果の具体的なデータ〉

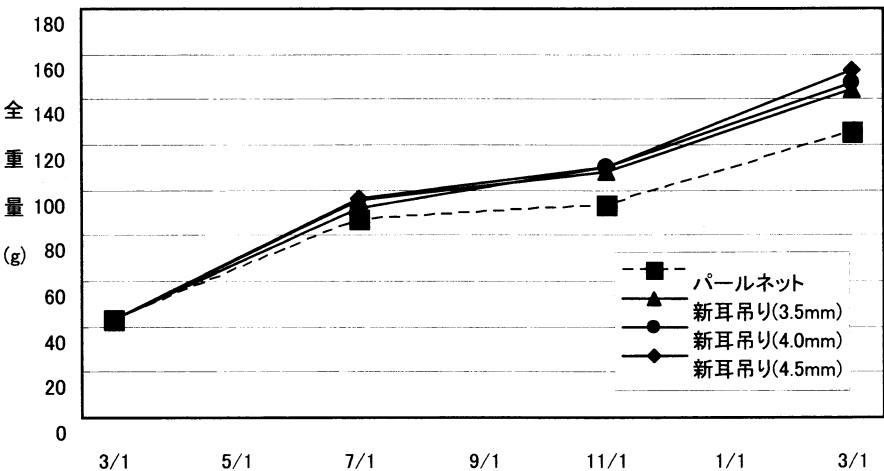


図1 養殖方法別の成長1(全重量)

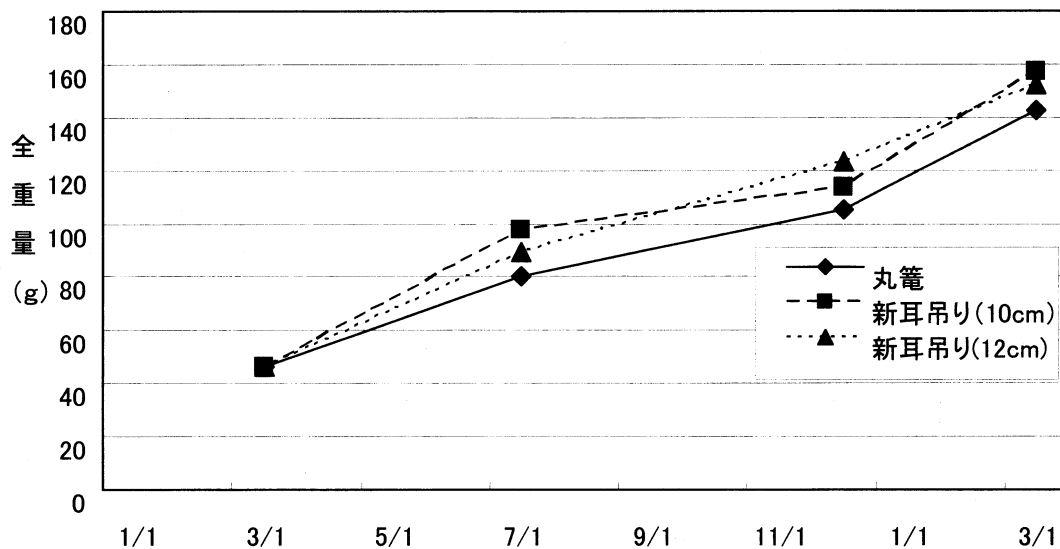


図2 養殖方法別の成長2(全重量)

〈今後の問題点〉

新しく試作した留金用ロープを使用して、留金の形状を改良した結果、成長が良いことが判ったが、ムラサキイガイが付着することもあるので、ムラサキイガイを付着させないように垂下水深を調整する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

なし

〈結果の発表・活用状況等〉

なし